



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Build The Future with Action and Vision

築け未来を行動力と先見の眼で

1996~97年度・国際ロータリーのテーマ/ルイス・ピセンテ・ジアイ会長

◎本日の例会 回ビュッフェスタイルのため卓話はありません

5月2日/第509回例会

◎先週報告

4月25日/第508回例会

回卓話「ボーイスカウトとロータリー」

(財)ボーイスカウト日本連盟常務理事 東京銀座ロータリークラブ会員 上島真一郎氏

回会長報告 本日は第2750地区パストガバナー松原 治氏をお迎えいたしました。

回幹事報告 5月本年度・新年度合同理事会を5月9日(金)例会後開催致します。

回SAA委員会(大日方委員長)5月例会着席方法について

世代を越えて会話の輪が広がるようにと願いを込めて、各テーブルの平均年齢が同じになるようにしました。

回出席報告●会員69名・出席50名・欠席19名(出席規定免除者2名)

ビジター(2名敬称略・順不同)/松原治(東京城西)、島崎保彦(東京南)ゲスト/金光圭一氏(加藤会員のゲスト)



順不同・敬称略

4月25日/14件 58,000円

本年度累計 2,125,907円

多額のご寄付を有難うございました。

田辺賢三/上島さん、本日は卓話を有難うございます。河原勢自/牧野さん、ご苦勞様。上島真一郎さん、卓話を楽しみにしております。明日、親睦旅行です。楽しくやりましょう。梶内滋男/母の葬儀には大勢の方から御弔意を賜り誠にありがとうございました。ボタン桜のもと87歳の生涯を閉じました。小杉修造/昨夜、ロータリー情報委員会で柴本さん、青野さん、吉岡さんにお世話になりました。鍋島晴夫/おかげさまで35周年となりまして。大日方真/親睦旅行楽しみです。西澤正雄/本日は急用の為、早退させていただきますので。宮川弘信/昨日の情報委員会に急用の為、欠席いたしました。柴藤清三郎/メイキャップが続きましたので。柴田尚毅/先日の社会奉仕活動の報告をします。渡部一元/社会奉仕委員会の皆さん、本日のクラブ協議会宜しくお願いいたします。横山秀明/本日のクラブ協議会、申し訳ありませんが途中で退席させていただきますので。清原元輔/牧野さんの笑顔に誘われて。牧野吉郎/親睦旅行に間近になり行けなくなり申し訳ありません。特に青野さんにご迷惑おかけいたします。

96年11月1-5日

財団管理委員会の決定事項の要約

DDFの余剰金の配分:各地区が配分した95-96年度のシェア選択による奨学金用の資金額と実際に要した経費との差額から生じた米貨310万\$の地区財団活動資金(DDF)の余剰金を、次のように使用することを決議しました。

約米貨100万\$は、50口のポール・ハリス記念奨学金に、約70万\$は褒賞枠使用以前から未支払経費となっていた70万\$を帳消しにするために、残りの140万\$は、それぞれの地区が配分したDDFからの資金額に応じて、各地区のDDFへ返済する。今後は、余剰金が生じた場合には、それぞれの地区DDFへ全額返済されます。

寄付増進と認証・ポール・ハリス・フェロー認証クレジットの変更:管理委員会は、認証方針の基本的な改正の必要を認め、ポール・ハリス・フェローとしての認証に用いられるクレジットの原則は、その寄付金がロータリー財団のプログラムを支援するものであることよるとしました。よって管理委員会は、これまでの決議を撤廃し、直ちに効力を発する決議として、財団プログラムに対する寄付金は、全部、ポール・ハリス・フェローの認証に用いることができるとしました。これには、年次プログラム資金、承認された同額補助金(スポンサーとしての担当額)ポリオ・プラス、ポリ

オ・プラス・パートナー、国際財団活動資金、承認された3-H補助金(スポンサーとしての担当額)、災害救援金(ロータリー財団を通じて送金された方)、ヘルピング・グラント(スポンサーとしての担当額)、などが含まれます。ポール・ハリス・フェローとしての認証用クレジットは、使用されない限り、寄付された年度に続く2年目のロータリー年度の終了をもって効力を失うことになる。

新しいポール・ハリス・フェロー・メダル:新しい男女共通のポール・ハリス・フェロー・メダルセットのデザインが承認され、97年7月1日より交付されます。現在使用の男性用・女性用のメダルは、男女共通の少し小型で、ロイヤルブルーと金色のリボンで首に下げられるように作られた標準型となります。(以下省略)

年次プログラム資金の「挑戦目標」を設定:米貨6,400万\$が97-98年度の年次プログラム資金の挑戦目標として設定されました。(以下省略)

研究グループ交換のプログラムの変更の要点:ロータリーアン以外のメンバー数、DDFから配分する補助金の減額、メンバーの資格条件の変更、新しい試み・隣接国との研究グループ交換ほか

「ガバナー月信」第10信(平成9年4月1日より)

◎5月行事予定

6日(火)火曜会 東京全日空ホテル 37F アストラル17:30~19:00

9日(金)5月本年度・新年度合同理事会

東京全日空ホテル 1F 朱鷺の間 例会後13:40~15:00

20日(火)地区協議会

新高輪プリンスホテル 10:00~15:40

ホストクラブ/東京京浜RC

25日(日)親睦ゴルフ会 urakuゴルフクラブ

回第5回クラブ協議会

(と き) 97年4月25日(金) 例会後13:40~15:15 (ところ) 東京全日空ホテル B1 瑞雲の間

テーマ「創立の原点を見つめて—過去を振り返り、未来を築こう—社会奉仕・国際奉仕を通して」

(1) 社会奉仕委員会

当委員会は本年度、次の目標を掲げて活動を行った。

- ①奉仕の心を育てよう。
 - ②地域に根ざした社会奉仕(Community Service)の実践
 - ③体験学習を通じて、喜びと感動を分かち合おう。
- 上記に基づき、下記の報告と提言が行われた。

●当クラブの社会奉仕活動の流れと10周年記念事業「ボランティア活動助成事業」の経緯(清原委員)

前年度設置された地域社会調査委員会により培われた港区社会福祉協議会との交流を通じ、同協議会ボランティアセンターに登録している地域のボランティア団体の内、福祉活動団体に切実なニーズが存在することを理解するに至った。当クラブの助成は地域ボランティア団体の大きな励みとなり、その波及効果も大きい。又地域住民のロータリーに対する理解促進も期待できる。

●ボランティア活動とロータリーの関係、及び社会奉仕活動の今後(吉田副委員長)

社会構造の変革に伴い、福祉の社会化が顕著である。その中で、ボランティアの存在意義は大きい。ボランティアとは何か、海外との比較、日本におけるボランティア発展の背景を総括的に論じた。併せてボランティアとロータリーの共通点と相違点も明確に認識する必要もある。今後我々は、地域ボランティア団体との交流を通じ、相互理解を深めつつ、ロータリアン個人の役割は何か、なにが出来るか、クラブとしてのボランティアへの関わり方はどうあるべきかを、社会奉仕委員会活動を通じて考えていきたい。

●ボランティア活動の実践—障害者は外に出よう。「各自の家からいざ鎌倉」(柴田尚毅委員)

港区在住の車椅子障害者約30名の鎌倉一日散策のためのボランティア活動に当クラブから8名が参加し、生まれて初めて車椅子を押す体験学習を行った。階段一つでも障害者は越えられないことが良く分かった。障害者もボランティアも大変面白いのが印象的だった。今後ともボランティアの輪を広げていきたい。〔写真参照〕

(まとも・委員長 渡部)



(2) 国際奉仕委員会

当クラブの10年の歩みの中での国際奉仕活動は、いろいろな形で展開されてきて大きな成果を挙げてきていることはご同慶の至りであります。当クラブでは、単にロータリー財団や米山奨学会事業に拠出金や寄付金の形で協力するばかりでなく、青少年交換では受け入れ送り出しの両面での会員の親身になってのお世話でその実を挙げてきていますし、親睦活動でも可能な限り積極的に参加して頂いておりますし、世界社会奉仕としては、同額補助金制度を活用したマニラダウンタウンのコンピュータセンタープロジェクトのような具体的な成果を挙げてきております。

今後、当クラブが主体性をもって更に積極的に国際奉仕活動を行っていくためには、先ず会員の関心と理解と積極的な参加が必要であります。主体性を持った国際奉仕活動といっても、ロータリーの活動である以上自ずからロータリーの考え方とルールは守っていかねばなりません。RIでは個々のロータリアンやクラブの奉仕活動を支援するために種々の情報交換の仕組みや基金の制度を作っています。この中には長年実行されてきているものもあれば、今日のPolio Plus Partnerのように新しいものもあります。先ずRIのそうした仕組みや制度をよく知ることが必要です。今後も会員のイニシアティブによるご提案があれば当委員会にお語り下さるようお願い申し上げます。(まとも・副委員長 柳澤)

(3) その他意見交換

(社会奉仕委員 村山)

何故ボランティアが必要なのか、ボランティアとは何か

理屈を述べるより先に実践が必要であると言われる。その通りで、今回鎌倉のボランティアに参加した方はまさにそう感じていると思う。ただ、これからやろうと思う人、あるいは他人を説得しようと思う人にとっては、「ボランティアとは何か」、「ボランティアが何故必要か」が、分からないと、腰が引けてしまう。その意味で勉強が足りなかったと反省している。特に、これまでの私の認識は、経済的にも時間的にも余裕のある人が、気楽な気持ちでやるものだという程度の認識しかなかったが、もっと前向きに考えなければならない状況にあるように思う。

ボランティア発展の経緯

農業社会ではボランティアは無意識に行なわれていた

村社会では、必要に応じて村の誰かが援助することが行なわれていた。例えば、病人がいたら誰かが介護する、道が壊れると皆で補修するといったこと。

工業化社会では

企業が村と同様の機能を果たすようになる。この点が欧米と大きく違っている面だと思う。企業の利潤追求、都市化の進展によって、企業が支えきれない部分を次第に行政が代わってするようになる。

行政依存から脱却して自らによる社会づくり

行政の力だけでは十分にはできないことがはっきりしてきた。例：阪神大震災、重油流出事故・・・悠長なことをいってられない

老人福祉、障害者福祉・・・きめ細かさ、明日はわが身。今では、ボランティアがないと社会が成り立たない、そういう認識が必要だ。

さらに踏み込んで、本来、社会・地域づくりは自らの手でやらなければならない、その実践の場としてのボランティアが評価されるに至った。そこでは、やりがいを感じることもできる。

皆がやらないといけな。我々はそういう活動を理解し、支援する、同時に自らが実践することが今求められている。

出席者(37名・敬称略)／青野、荒木、馬場、後藤、伊部、入沢、石坂、岩瀬、梶内、加藤、河原、清原、小杉(修)、松原、村川、村山、二宮、沖、佐々木、関、柴本、柴田(尚)、柴田(陽)、柴藤、四分一、島田、新保、杉山、武下、田中、渡部、渡邊、山下、柳澤、横山、吉田、吉岡

◎次週予告 回卓話予定「今、映画が向かうべきこととは」

5月9日/第510回例会

映画監督 篠原哲男氏

東京新南ロータリークラブ

会長：河原勢自 副会長：保森 登 幹事：荒木昭文

〒107 東京都港区赤坂 2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂 1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

山下 忠治、大村 富俊、伊部 和夫、大日方 真、柴藤清三郎、相澤 成憲、島田 昌雄、村山 公士、川鍋 二郎、関 征春、宮本 正祥、岩瀬 秀郎

(編集担当順)